



鶏 けいめい 鳴

2008年5月11日(第13号)

イエスの言葉

『朝の食事をしなさい』

聖書(ヨハネ福音書21章12節)

牧師 河合 裕志

イエスはいろんな言葉を残したが上記なんかもその一つ。これはごく普通の日常用語で格言でも何でもなし。これは私達の間でも言われていることで、朝食はキッチンととらないといけなさいよ、と子ども達に言ったり、とらせなさいよ、と親達に言ったりする。

今イエスはどんな状況でこの言葉を口にしたのか。場所はガリラヤ湖畔。ペトロら七人の弟子達が舟に乗り込み漁に出かけた。しかしその夜は何もとれなかった。白白と夜が明けた頃、いつの間にか十字架につけられ死んだ筈のイエスが岸边に立っていた。このイエスが90m程先のペトロ等に「子たちよ、何か食べ物があるか」と声をかける。彼らにはその声の主がイエスであるとはわからず「ありませーん」と返事した。なぜわからなかったのか。朝もやのせいかな。いや、復活など絶対にないとする彼らの観念のせいだろう。

イエスは再度声をかけた。「舟の右側に網を打ちなさい。そうすればとれるはずだ」。ペトロ等は魚とりのプロだがここはこの見知らぬ男の指示に従った。その言葉に力があつたから。一回位試しても悪くはあるまいと思われたから。しかしその結果は大漁でもはや網を引き上げることはできなかった。その時「あれは主だ」とヨハネが叫ぶ。それを耳にしたペトロがまじまじと岸の男を見ればまさしく主イエス。これは大変だ、失礼があつ

てはならぬとばかり、裸同然だったので上着をまとって湖に飛び込み抜き手を切つて急ぎ岸に向つた。舟は大漁でスピードが出なかつたので。

陸にはイエスによって炭火がおこしてあつた。その上に魚がのせてありパンも準備されている。イエスは、今とつた魚を何匹か持つて来るように指示。ペトロが網を引き上げると153匹もの大きな魚で一杯だつた。そして魚の焼具合を見てイエスは「朝の食事をしなさい」と勧めた。この食事は腹ペコの彼らにとって誠に有難いものであつた。

思うにイエスは今日も私達に「朝の食事をしなさい」と勧めそれを与えてくれている。三度の食事、それは天にいます父なる神及び主イエスより来る。また心の食事・栄養である聖書・イエスの言葉を朝毎に摂取する。更にイエスは自分をパンとして食べるように促している。それは彼の十字架の死を私の罪が赦されるための犠牲として有難く信じ受けとること。この事実を忘れないため教会は二千年にわたり今も最後の晩餐を守りイエスの犠牲を示すパンとブドウ酒を頂いている。

集会案内

主日礼拝	: 毎日曜日 午前10時15分
こどもの教会	: 毎日曜日 午前9時
高校生会	: 毎日曜日 礼拝後
婦人会・壮年会	: 第2日曜日 礼拝後
聖書を学ぶ集い	: 第4水曜日 午前10時
オリーブの会(読書会)	: 第3月曜日 午前10時